

早明浦ダムだより

令和3年を振り返って



早明浦ダム
ホームページ
↑スマホはこちらから

「早明浦ダムだより」を発行し3年が経ちました。今年の雨の状況は、統計史上最も長い梅雨入りとなりましたが、梅雨末期の7月の降雨量は半年の半分程度しかなく、一時は徳島県や香川県で取水制限が始まるなど、深刻な渇水となることも危惧されましたが、8月に入ると、少雨傾向が一転して、台風第9号や前線の停滞による長雨により、8月14日には貯水率が100%に回復しました。

ダム周辺では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により多くのイベントが中止となりましたが、そうした中でも、5月にはダム堤体内の最深部で一年間熟成した日本酒、「桂月」の一部が取り出され、ダム酒として発売されました。お酒の味はまるやかで出来は上々のようです。

11月には、昨年引き続き大川村で「オンライン謝肉祭」が開催され、多くの方が「大川黒牛」や「はちきん地鶏」の味を自宅で堪能されました。このように地域の方々が、ITを活用した新しいイベントを開催しています。

早明浦ダムでは、このような状況の中でも、地域の皆様により一層親しまれるよう努めてまいりますので、引き続きご理解とご協力をよろしくお願いたします。

独立行政法人水資源機構

早明浦ダム・高知分水管理所長

林 幹男

★★最近の出来事★★

出前講座

11月11日、土佐町小学校3年生を対象に出前講座を行いました。この出前講座は、早明浦ダムを知ってもらい、より親しんでいただくために、ダムの職員が小学校等へ赴き、ダムについて説明を行うものです。

当日は早明浦ダムの上流にある稲村ダムとの違いや、ダムの役割について学んでいただきました。また、施設案内動画も視聴していただき、堤頂106mからの景色を流したときには歓声が上がると、非常に楽しんでいました。

約1時間の講座でしたが、ダムの働きや暮らしとの関わりについて理解を深めました。



【出前講座の様子】

ダムに虹がかりました！

10月25日、雨上がりの午後5時頃、ダムの上空に大きな虹が架かりました。日没まで間もなかったのですが、カメラは奇跡の瞬間を見事にとらえました！

このような日々の出来事や防災情報をTwitter（「池田総合管理所」で検索）で発信していますので、是非ご覧ください。



利水放流管からの放流

平常時の早明浦ダムからの放流（利水補給）は、貯水池から約80mの大きな落差を利用して、ダム直下流に位置する早明浦発電所（管理：電源開発株式会社）で水力発電を行いながら水を流しています。

この早明浦発電所では、11月から来年4月にかけて発電設備の更新工事が行われるため、発電所を経由した放流ができません。そのため、工事期間中に利水補給を行う際は、ダム堤体に設置している2つの利水放流管から水を流しています。



【利水放流管からの放流状況】



【ダム堤頂より】

ダムにお越しの際には、普段とは違う様子の早明浦ダムが見られるかもしれません。

なお、降雨により河川の水量が多い場合には、利水放流管からの放流を停止することがあります。

★★ SDGsへの取組み ★★

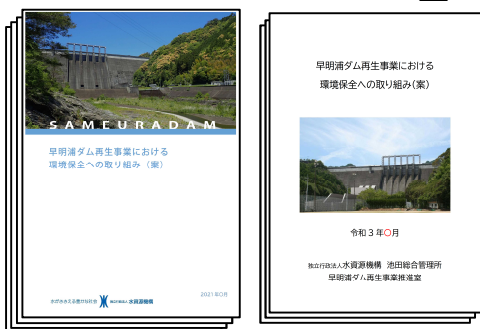
SDGsとは、持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals) の略称です。これは、2015年9月の国連サミットにおいて193の加盟国の全会一致で採択された、2030年までに地球上の「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい世界を目指すという国際目標です。気候変動や格差などの幅広い問題解決のため、全ての国が関わって取り組む目標であり、17のゴール(目標)と169のターゲット(達成基準)が定められています。

今年8月6日には吉野川ダム統合管理事務所が全国の管理ダムで初めて、事務所が実施する取組みとSDGsのターゲットとの関係を取りまとめ、SDGsの考え方を念頭に取組みを進めていくことを情報発信しています。この取組みには早明浦ダムで実施している取組みも関係しているものがあります。

早明浦ダムでは吉野川ダム統合管理事務所と協同し、このSDGsの達成に貢献するための取組みを進めていきます。SDGsに関しては、今後も「早明浦ダムだより」でご紹介していきます。

☆☆ 再生事業の環境への取組み ☆☆

平成30年度から実施しております早明浦ダム再生事業に伴う環境への影響・評価の結果について、「早明浦ダム再生事業における環境保全への取組み」(環境レポート)として、近日中に早明浦ダム再生事業のホームページに掲載いたします。環境レポートは、広く一般の方々にも読んで頂けるよう読みやすさを重視した「パンフレット版」と、より詳しく調査から評価結果までを記載した「報告書版」の2種類を、環境検討委員会の委員の方々からのご意見をいただき作成しました。是非ご覧下さい。



環境レポートのイメージ
(右:パンフレット版、左:報告書版)



吉野川の流域面積は四国の約20%を占め、豊富な水資源は四国4県で活用されています。

- ### 取組み方針
- 吉野川ダム統合管理事務所及び池田総合管理所の取組みは、SDGsのターゲットと多くの点で合致しています。
 - SDGsの考え方を念頭に置きつつ取組みを進めていきます。
 - SDGsの考え方を多数の関係者との共通の言語として活用し、関係者との連携・調整を図っていきます。

